

中国 繁栄する浙江省のモモ栽培

[FreshPlaza 2024年8月30日](#)

夏になると、果物の屋台やモモウーロン茶を売る奶茶店(ミルクティー専門店)で、また、かき氷用の食材として、モモが目立つようになる。中国を原産地とし、およそ4千年前から消費されてきたモモは、栽培面積と生産量で中国が世界をリードしている。その中でも、浙江省寧波市奉化区は、モモの栽培で際立っている。

800年以上の歴史を持つ奉化は、モモの栽培に最適な環境に恵まれ、現在3万5千ムー(約2,333ヘクタール)で30品種以上を栽培している。これにより、約6万トンを生産し、関連産業の総生産額に10億元(約1億7千万ドル)以上の貢献をしている。

この地区の温暖で湿度の高い気候は、モモの生育に理想的で、独特の甘さの果実を産出する。奉化のモモブランドの代表者は、「モモの果皮は通常緑色で、日光が当たるところは赤みがかっている。モモの中には、日光への露出の差により色ムラが出るものや、表面に天然の斑点があるものもあるかも知れない。しかし、味が本物であることに変わりはない」と説明する。

奉化は、収穫後の管理を重視し、中国で最初の高度なモモ選別システムを採用し、成熟度の正確な調整、効率的な物流と輸送中の温度管理に力を入れている。

最近、奉化は600箱のモモをドバイに輸出し、4玉入りの各箱が79.9ディルハム、すなわち1玉当たり約40元(約810円)で販売された。輸出会社のスタッフは、「今回のモモの輸出は、弊社の国際的な販路を広げるチャンスとなる。我々は申し分のない品質を保証し、世界市場における奉化モモの足場を確立する必要がある」と述べた。

奉化区林家村のリン・ヨンチェ党書記は、モモの販売が地域社会に与える経済的影響を強調し、「モモはこの村の繁栄の鍵である。多くの村人は、モモの販売によって新しい家を立てたり、子供達を大学に行かせたりしている」と述べた。また、モモの花の季節には、約30万人の観光客が村内の有名な果樹園を訪れた。

シンガポールとオランダの市場への参入を果たした後、最近のドバイへの出荷は、奉化のモモ輸出のさらなる拡大を表している。奉化の人々は、彼らのモモを世界の隅々まで届けることを目指している。

出典: [人民日報](#)

ペルー 2024-25年度のブドウ出荷は回復の見込み

[FreshPlaza 2024年8月30日](#)

ペルー生食用ブドウ生産者・輸出業者協会(Provid)は、2024-25年度シーズンの最初の収穫量予測を7,870万箱(8.2kg/箱)と発表した。この予測は、協会関係者と生産者の推計値に基づいている。

同国北部のブドウ生産は、昨シーズンは悪天候の影響を受けたが、今シーズンは回復が見込まれる。これは、ブドウセクターが挫折を乗り越え、新たな課題に適應する優れた能力を有しており、世界市場での競争力と地位を維持しようとする成熟した産業としての地位を固めていることを示している。このセクターはまた、特に生産性の高い新品種の採用を通じて、変化する消費者の嗜好に適應している。

ペルーは来シーズン、米国、中国、ヨーロッパ諸国、中南米諸国等、50以上の市場にブドウを輸出する。ペルーでは、海岸線の大部分に沿ってブドウを栽培している。生産はイカ県(49%)とピウラ県(37%)が主導し、ランバイエケ(6%)、ラリベルタ(5%)、アレキパ(3%)、アンカシュ(0.5%)、リマ(0.5%)、モケグア(0.1%)の各県がこれに続いている。

生食用ブドウは、産地の大きな経済成長を牽引し、地域経済の安定に貢献している。さらに、この業界は、資源保護とコミュニティの福祉を促進する持続可能な栽培方法に取り組んでおり、責任ある経済、社会、環境開発に対する国の取組みに貢献している。Providは今後、10月と12月(出荷開始後)に予測を発表する。